

心無限

中学校
3年A組学級通信
担任：染谷幸二
No. 474
6月3日

学級は発展途上にある

1つ1つの課題を克服することで成長を手に入れます。卒業まで、その繰り返しです。

昨日の帰りの会で《厳しいこと》を言いました。それは「A組なら、すぐに取り戻してくれる」と思ったからです。優勝という余韻に浸ることは悪いことではありません。《体育祭モード》から《授業モード》に変わるまでに時間がかかることも理解できます。「疲れているのだから、少しぐらい乱れていても見逃せるのではないか?」「教室環境の多少の乱れがあっても、体育祭優勝という結果は変わらないのだから…」と割り切ることもできます。でも、優勝したからこそ、細部までこだわってチェックしていかなければ、体育祭・合唱コンクールで足元をすくわれると思ったからです。

昨日の教室掃除、とても素晴らしかったです。役割分担が的確でした。誰かが指示しなくても、黙々と作業を進めていました。すぐに取り戻すのがA組の長所です。とてもうれしかったです。

昨日、素晴らしい姿をたくさん目にするのができたのは事実です。

例えば、給食の後片付けです。欠席者が多くて給食当番の数が少なく、食缶が残っていました。それを見て、すぐに行動したのが山田温也君と佐藤信明君です。近藤桃花さんと大澤涼可さんは放課後遅くまで残ってはちまきのアイロンがけをしてくれました。

どちらも当番（やらなければならない活動）ではありません。滞っている場面を見て、「学級のためにやろう!」という思いが行動のエネルギーになりました。簡単そうで、できることではありません。

ほとんどの人は《滞っている場面》に気づきません。気づいたとしても、「私の仕事ではないし…」「僕がやらなくても誰かがやるはずだ!」と思うのが普通の思考です。4人は、そうした状況から一歩踏み出して行動したのが素晴らしいです。学級というには、誰もが気づかない場面で気づき、望ましい状態にするために進んで行動してくれる人が支えていきます。担任として、感謝の気持ちでいっぱいです。

新学期、1枚の写真を見せました。前任校で、卒業式が終わり、卒業生が帰った後に撮った教室の写真です。卒業メッセージが書かれた黒板がきれいになっていました。集合写真を撮るために移動したはずの机と椅子が整然と並んでいました。学級文庫の本も整頓されていました。記念品の花束が入っていたバケツも掃除用具入れに戻されていました。教室の時計は午後1時を指していました。

卒業式後、教室が整然となっていました。

私が常に言い続けていた《いつも通りが最も大切!》という言葉の意味を理解し、卒業生たちが《いつも通りの姿》で卒業していったことが何よりもうれしく感じました。その整然とした教室から「中学3年間、何も思い残すことはありません!」「後輩たちに教室を譲ります!」というメッセージを感じました。

《その後の姿》にこそ、その学級のメッセージが込められると考えています。

体育祭も同じです。A組は、どんなメッセージを残したいですか?

=生徒名はすべて仮名です=